

武庫川水系河川整備計画 進行管理報告書（案）

[平成27年度版] の概要

～ 平成26年度の主な取り組み ～

平成27年 9月 8日

兵庫県

目次

武庫川水系河川整備計画 進行管理報告書(案)の概要 ～平成26年度の主な取り組み～

1. 進行管理方法（PDCA）の概要
2. 進行管理報告書一覧表
3. 各対策の概要図（河川対策、流域対策、減災対策）
4. 平成26年度取り組み状況
 - 河川対策
 - 流域対策
 - 減災対策
 - 正常流量の確保
 - 動植物の生活環境の保全・再生
 - 流域連携

1. 進行管理方法（PDCA）の概要

1-1. 進行管理に関する河川整備計画の記述

<武庫川水系河川整備計画(平成23年8月)P.80 抜粋>

本計画の着実な推進を図るため、PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理、フォローアップ委員会(懇話会)の設置を行うとともに、地域住民等との情報の共有化を図る。

(1) 河川整備計画の進行管理

PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を図る仕組みを導入することとし、どのような進行管理の仕組みが可能か検討を行ったうえで、下記のフォローアップ委員会(懇話会)の意見を聴き、具体化を図る。

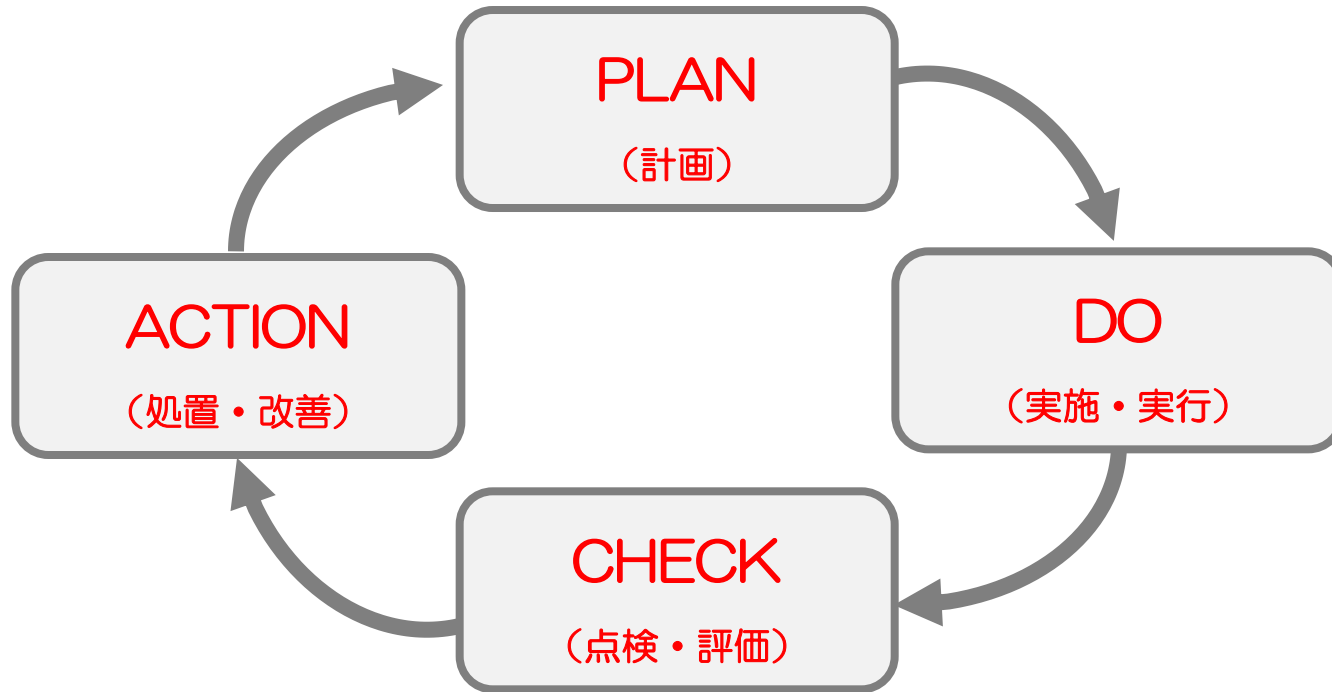
(2) フォローアップ委員会(懇話会)の設置

新たに、学識経験者と地域住民で構成するフォローアップ委員会(懇話会)を設け、施策や事業の実施状況等を、定期的に委員会(懇話会)に報告し意見を聴く。

また、PDCAサイクルによる進行管理の仕組みが具体化した段階で、施策や事業の実施状況の点検・評価を行い、それをフォローアップ委員会(懇話会)に報告することで説明責任を果たすとともに、委員会(懇話会)から意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善につなげていく。

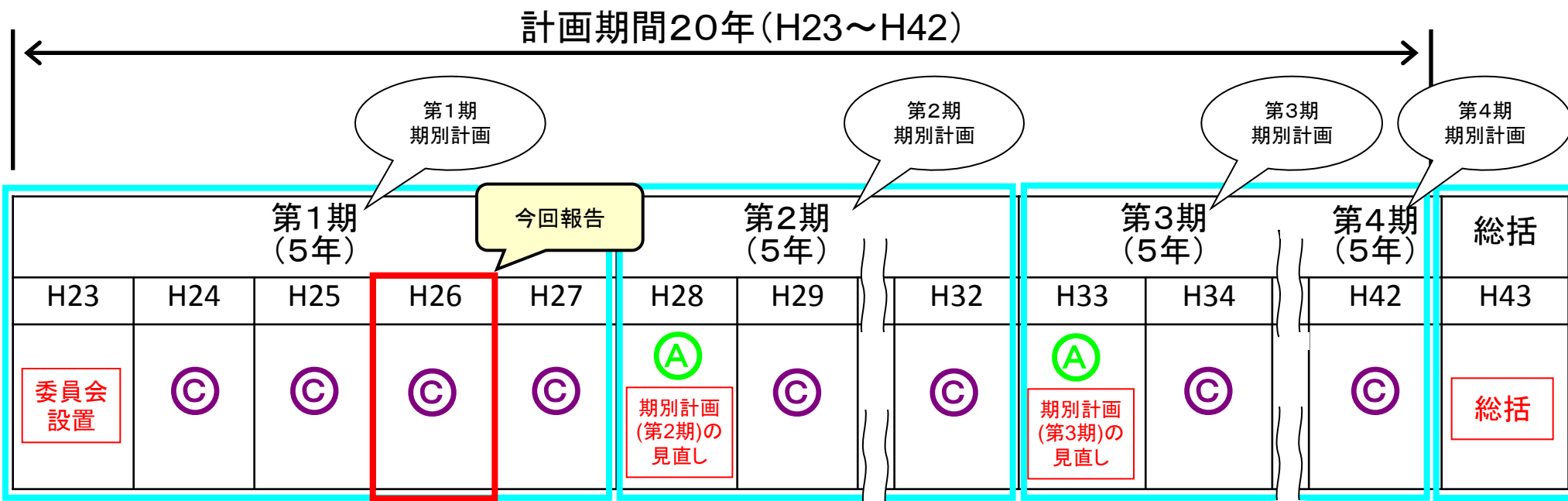
1-2. PDCAサイクルとは

PDCAサイクルとは、計画(Plan)→実施・実行(Do)→点検・評価(Check)→処置・改善(Action)を繰り返しながら、計画の継続的な改善を図る進行管理の手法。



1-3. 武庫川水系河川整備計画の着実な推進を図るしくみ

- ① 計画期間20年(H23～H42)を4分割して5年を1サイクルとし、5年度毎に期別計画を定め、これを目標として取り組みを推進する。
- ② 毎年度、委員会(懇話会)の意見を聴いて、期別目標の達成に向けての微修正を加えながら各年度の取り組みを行う。
 - … (C) Check
- ③ 5年に1度検証を行い、その結果を次の期別計画に反映する。
 - … (A) Action



1-4. 進行管理（PDCA）の具体的進め方

河川整備計画より抽出した実施目標毎（全22組）に、**進行管理点検票**を作成し進行管理。

進行管理点検票の構成

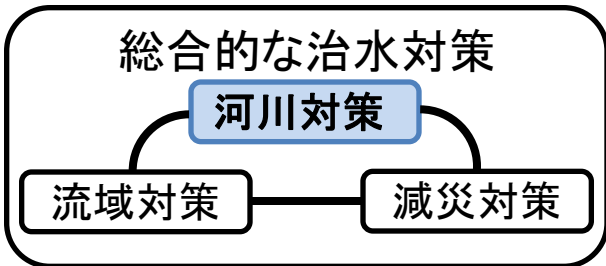
河川整備計画の事項・項目	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 実施目標および実施施策の 具体的内容を記入 </div>				実施目標							
施策の概要												
1. 期別計画（P）							2. 実績（D）					
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画（P）				実績（D）					
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
			1. 期別計画(P) 第1期～第4期の計画を期別に記入				2. 実績(D) 毎年度の実績を記入					
3. 点検・評価（C）（第1期 [H23～H27]）												
			点検・評価（C）H23		点検・評価（C）H24			点検・評価（C）H25				
			3. 点検・評価(C) 毎年度の点検結果を記入									
			点検・評価（C）H26	点検・評価（C）H27								
4. 改善（A）（第2期 [H28～H32] に向けて）												
							4. 改善(A) 5年ごとの改善方策を記入					
							第2期(H28～H32)の 期別計画への反映					

2. 進行管理報告書一覧表

管理番号	大項目 (対策名)	内容
1	河川対策	下流部築堤区間
2		下流部掘込区間
3		中流部
4		上流部及び支川
5		堤防強化（支川）
6		堤防強化（下流部築堤区間）
7		遊水地、青野ダム活用
8		洪水調節施設の継続検討 (千苅ダム治水活用検討)
9	流域対策	流域対策
10	減災対策	減災対策
11	正常流量の確保	

管理番号	大項目 (対策名)	内容
12	緊急時の水利用	
13	健全な水循環の確保	
14	動植物の生活環境 の保全・再生	2原則の適用
15		天然アユが遡上する川づくり
16	良好な景観の保全・創出	
17	人と河川の豊かなふれあいの確保	
18	水質向上	
19	維持管理	
20	流域連携	
21	モニタリング	
22	フォローアップ	

3-1. 各対策の概要図 ①河川対策



①下流部築堤区間の整備

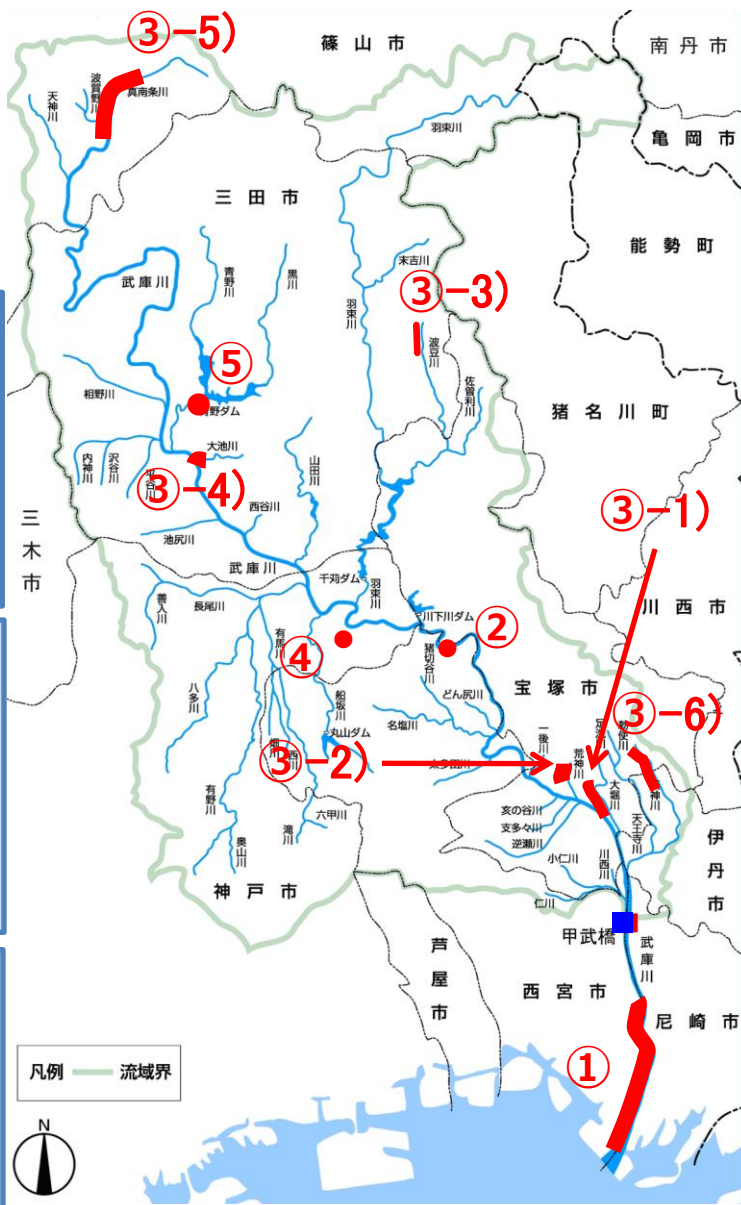
- ・低水路拡幅工事
- ・堤防強化

②中流部(武田尾地区)

- ・築堤、護岸等の設置

④遊水地の整備

⑤青野ダムの活用



③上流部及び支川の整備

1) 大堀川(宝塚市)	2) 荒神川(宝塚市)
橋梁架替	護岸整備
3) 波豆川(三田市)	4) 大池川(三田市)
護岸整備	護岸整備
5) 上流武庫川(篠山市)	6) 天神川(伊丹市)
河道掘削	堤防強化

図. 二級河川武庫川流域図

● ———— 平成26年度対策区間および箇所

3-2. 各対策の概要図 ②流域対策

総合的な治水対策

河川対策

流域対策

減災対策

①校庭貯留整備

- ・【整備完了】宝塚東高校、阪神昆陽高校
三田西陵高校、西宮甲山高校
北摂三田高校
(H25年度までの完了地点を含む)
- ・【事業着手】宝塚北高校、神戸北高校
有馬高校

校庭に設置された周囲小堤



②公園等

- ・【整備完了】甲山森林公園
三田カルチャータウン太陽光発電所

③森林整備・保全

- ・人工林間伐、表土侵食防止、
混交林整備
(神戸市、三田市、篠山市)



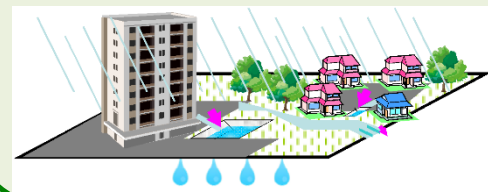
④水田貯留の推進

神戸市北区にてセキ板を配布



⑤調整池

- ・県は重要調整池の設置に関する技術基準を策定(平成25年)
- ・以下の4市は県よりも小さな開発規模でも調整池設置指導を実施(神戸市、西宮市、伊丹市、宝塚市)



⑥雨水貯留タンク助成

- ・尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市
三田市で実施



⑦道路側溝等の浸透化

- ・県はガイドラインをH24年に策定
- ・開発者及び市で施工
(尼崎市、西宮市)



図. 二級河川武庫川流域図

- 貯留施設整備箇所(整備完了)
- ▲ 貯留施設整備箇所(事業着手)
- 雨水貯留タンク助成市

実施目標

戦後最大洪水を安全に流下させる。

Plan 【第1期計画】

- ・ 下流部築堤区間（河口～JR東海道線橋梁下流）
- ・ 低水路拡幅・高水敷掘削
- ・ L=1,500m

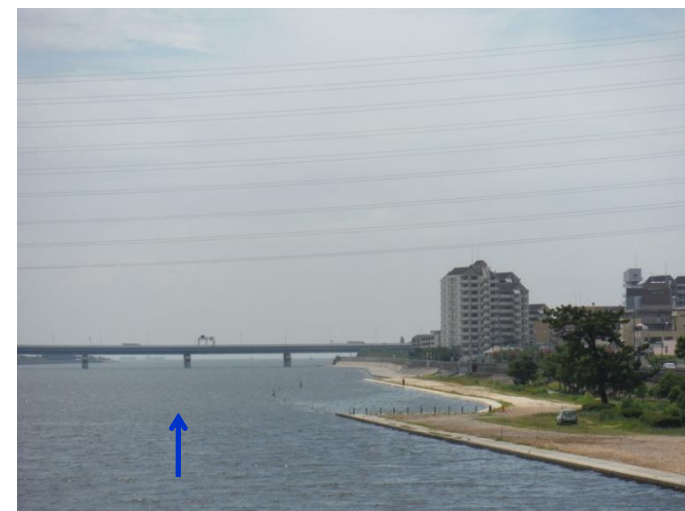
Do 【H26年度実績】

矢板護岸・低水路拡幅工事 右岸（西宮市側）L=123m[完了]、他770m [着手済]

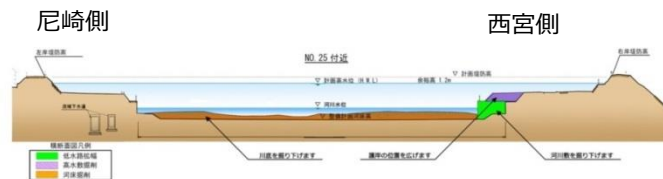
施工状況



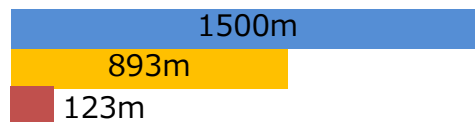
施工完了



河川整備断面図



Check



- 第1期対策予定延長（H23～H27）
- 平成26年度迄着手延長
- 平成26年度迄完了延長

- ・ 河道対策工事を継続実施。今後も更なる事業推進を図る。



実施目標

戦後最大洪水を安全に流下させる。

Plan 【第1期計画】

- ・ 下流部掘込区間（仁川合流点～名塩川合流点）
- ・ 河床掘削等 L=0.5km

Do 【H26年度実績】

- ・ 生瀬大橋～名塩川合流点について、調査測量及び護岸設計を実施
- ・ 道路管理者との協議を継続



Check

- ・ 地元合意が得られるよう、継続的に協議を進める。
- ・ 円滑な事業執行に向けて、道路管理者との協議を継続して実施する。

実施目標

戦後最大洪水を安全に流下させる。

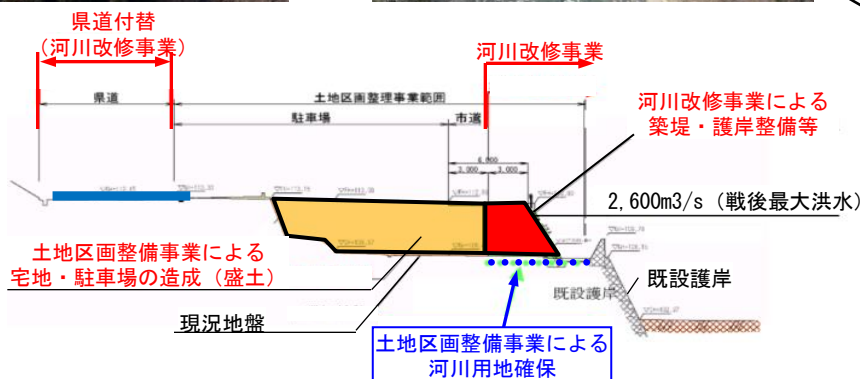
Plan 【第1期計画】

- ・ 中流部（名塩川合流点～羽束川合流点）
- ・ 護岸整備等
L=520m ※住宅地区
L= 90m ※温泉地区



Do 【H26年度実績】

第1期（県道工事）概成
H26. 8月豪雨の影響により一部設計見直し



Check ・土地区画整理組合とも連携しつつ、事業推進を図る。

※武田尾（住宅地区）については、平成27年度から護岸工事に着手し、平成29年度完成する見込み。

実施目標 各河川の目標流量を安全に流下させる。

Plan 【第1期計画】

上流部（羽東川合流点～本川上流端）及び支川
河道掘削、護岸工、橋梁架替等



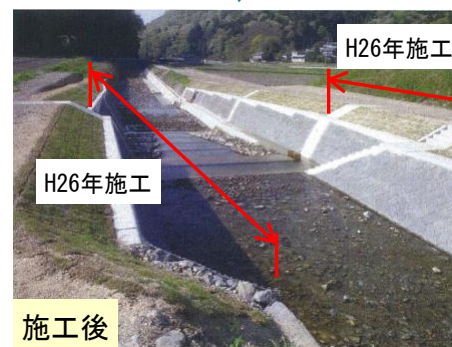
Do 【H26年度実績】

荒神川（宝塚市）
：護岸工 L=50m

（宝塚市施行）

波豆川（三田市）
：護岸工 L=41m

大池川（三田市）
：護岸工 L=72m



Check

・ 今後も予算の確保に努め、計画的に事業の進捗を図る。

実施目標 洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。

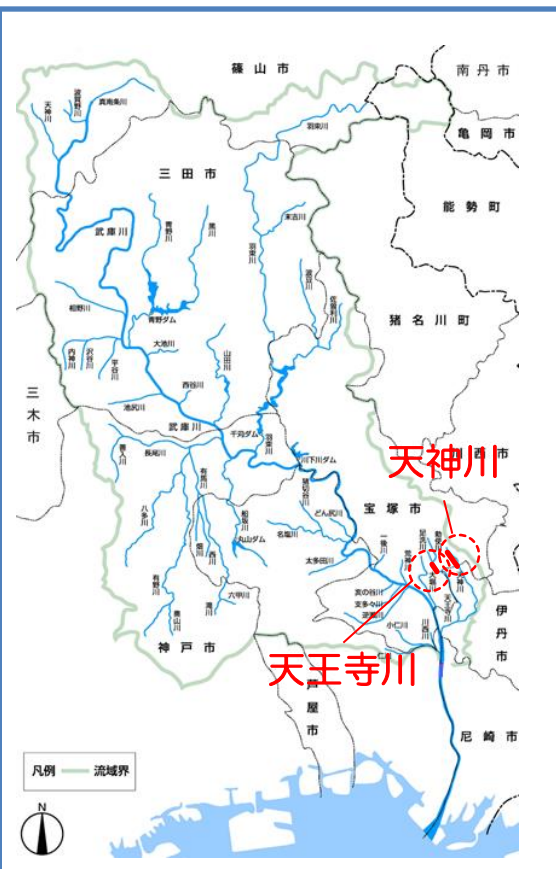
Plan 【第1期計画】

【天王寺川】（伊丹市，宝塚市）

- ・堤防強化 L=0.2km

【天神川】（伊丹市，宝塚市）

- ・堤防強化 L=1.4km



Do 【H26年度実績】

- ・天王寺川：ドレーン工による浸透対策 L=0.2km完了
- ・天神川：表のり面被覆工による浸透対策 L=0.2km完了

天王寺川:ドレーン工

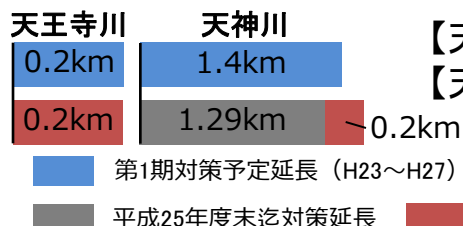


天神川:表のり面被覆工



Check

進捗率



【天王寺川】 整備計画予定区間は全て完了となった。
 【天神川】 第1期計画区間の整備を完了した。
 今後も引き続き整備推進に努める。

実施目標 洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。

Plan【第1期計画】

下流部築堤区間の堤防強化
(南武橋～仁川合流点)

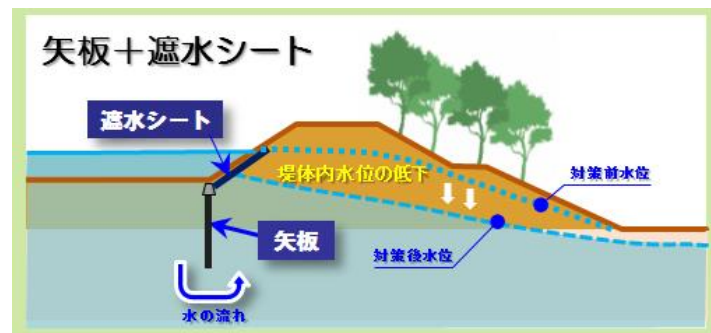
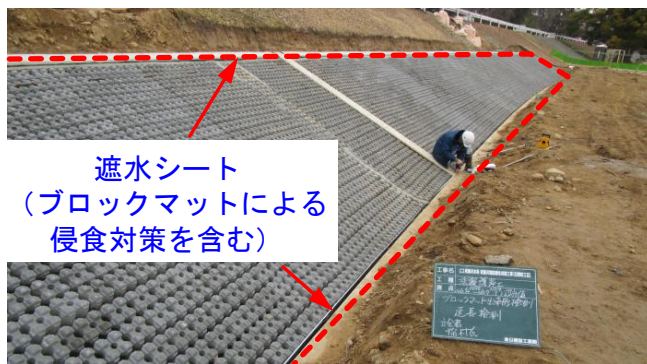
- ・ 浸透対策 L=6.1km
- ・ 侵食対策 L=0.7km



Do【H26年度実績】

- ・ 浸透対策：約0.2km完了[西宮市日野町]

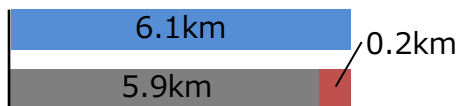
矢板+遮水シートによる浸透対策



矢板と遮水シートにより堤防内へ入る水の経路が長くなるため、堤防内へ水がしみこみにくくなり堤防内水位の上昇を抑えます。

Check

進捗率



- 第1期対策予定延長 (H23～H27)
- 平成25年度末迄対策延長
- 平成26年度対策延長

- ・ 第1期計画6.1kmの浸透対策を完了した。
- ・ 引き続き、浸透・侵食対策を行い、堤防の安全性確保に取り組む。

実施目標

遊水地の整備を進めることによりこれまで以上の洪水調節を行う。

Plan 【第1期計画】

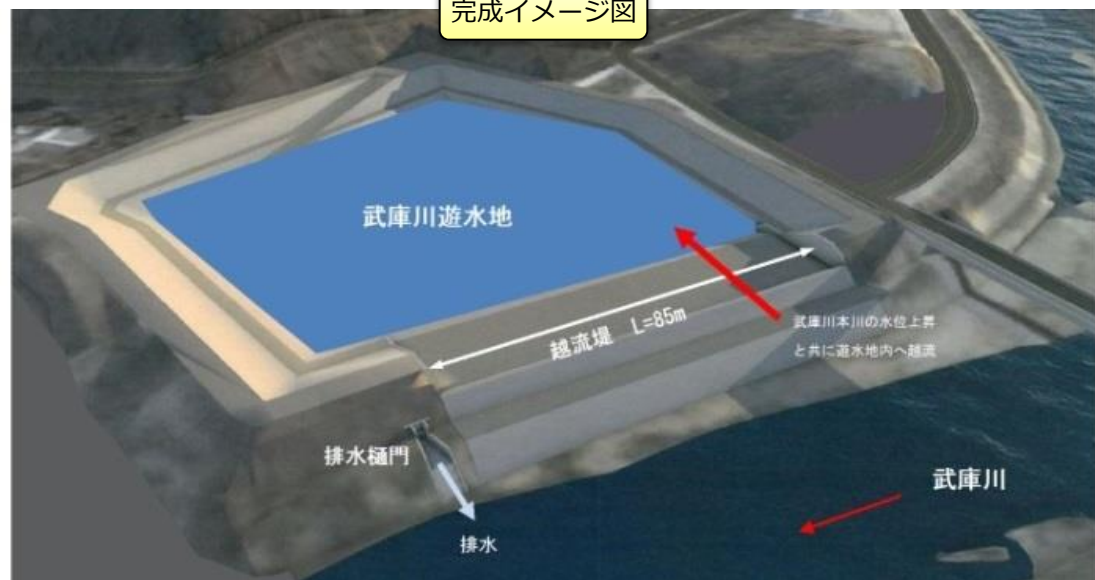
- ・ 武庫川遊水地の工事着手

Do 【H26年度実績】 武庫川遊水地：詳細設計が完了

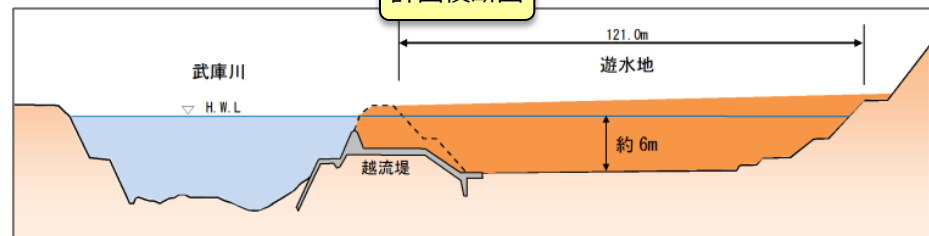
位置図



完成イメージ図



計画横断面図



Check ・ 早期完成に向けて、引き続き事業推進を図る。

※武庫川遊水地については、平成27年度から掘削工事に着手し、平成30年度完成する見込み。

実施目標

- ・青野ダムの洪水調節容量を拡大させることによりこれまで以上の洪水調節を行う。(管理番号7)
- ・さらなる安全度の向上に向けて、利水ダムの治水活用を検討する。(管理番号8)

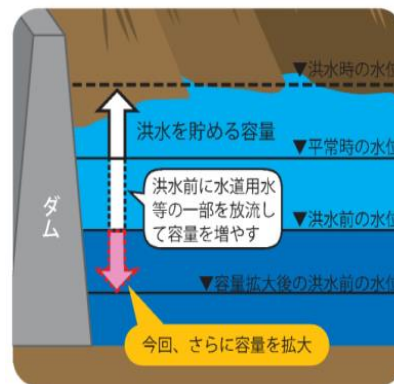
Plan 【第1期計画】

- ・青野ダムの活用；
事前放流試行操作の継続

Do 【H26年度実績】

青野ダム

H26年度は1洪水で事前放流を実施した(累計6回事前放流を実施)



洪水調整容量拡大のイメージ

これまでの洪水調節容量
容量拡大後の洪水調節容量

Check

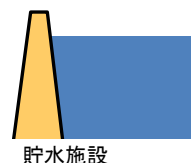
- ・青野ダムの事前放流については、渇水リスクや下流部の水位上昇への影響等の検証が必要である。

Topix 千苅ダムの活用

事前放流による治水活用の検討

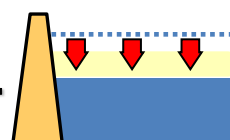
- ・事前放流に必要となる放流施設の概略検討[H27継続中]
- ・事前放流に伴う貯水池内水質影響シミュレーション[H27継続中]

■ 平常時



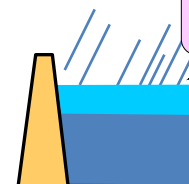
大雨が降りそう...

■ 大雨に備えて



事前放流等を行い、雨水貯留容量を確保

■ 大雨時



あらかじめ容量を空けておいたことにより貯留

雨水を貯留

千苅ダム活用のイメージ

※ 千苅ダムの治水活用については、渇水リスク等の課題があるため、さらなる検討が必要



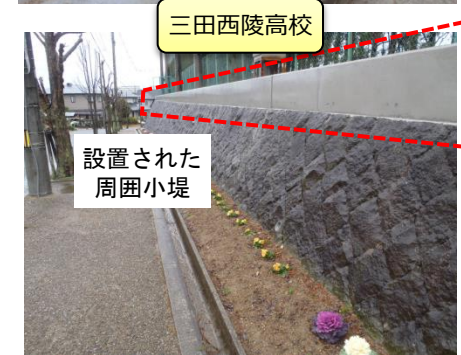
実施目標 学校、公園等を利用した貯留施設等を設置し、流出抑制を行う。

Plan 【第1期計画】

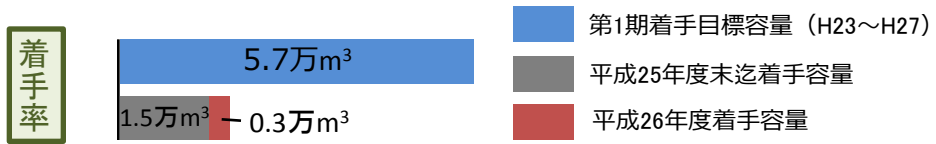
- ・ 学校、公園、ため池等を利用した貯留施設等の整備
- ・ 貯留量 約5.7万m³着手 (7箇所着手)

Do 【H26年度実績】

- ・ H26年度：0.3万m³着手 (累計1.8万m³、公園1箇所・学校8箇所の計10箇所着手)



Check



施設所有者の理解を得ながら、引き続き目標貯留量の確保に向けて取り組んでいく。

実施目標 流域市等と連携して取り組む、様々な流出抑制対策（森林）

Plan【第1期計画】

■森林保全と公益的機能向上

- ・人工林の間伐等（関係機関連携・住民連携）
- ・急傾斜地にある間伐対象人工林の表土侵食防止対策
- ・高齢人工林の広葉樹林への一部誘導（混交林整備）

Do【H26年度実績】人工林の間伐や表土侵食防止、混交林整備等を進めた。

間伐・作業道の開設



緊急防災林（斜面对策）



高性能林業機械による搬出間伐



針葉樹林と広葉樹林の混交林整備



H26年度整備実績

人工林間伐等	392ha
急斜面地表表土侵食防止対策	96ha
混交林整備	30ha

Check

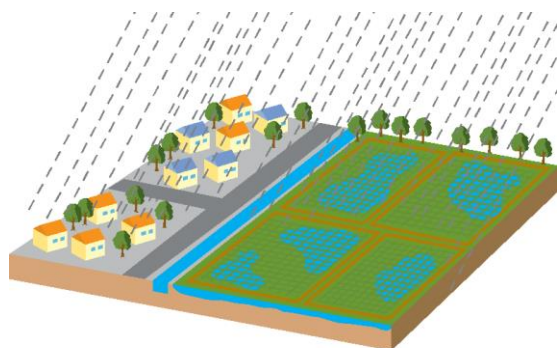
- ・混交林整備は100ha着手（第1期計画）に対して120ha着手し、目標を達成した。
- ・今後も引き続き森林保全と公益的機能向上に努めていく。

実施目標 流域市等と連携して取り組む、様々な流出抑制対策（水田）

Plan 【第1期計画】

水田での雨水貯留による流出抑制

水田貯留



Do 【H26年度実績】

・神戸市北区八多町（八多川）においてセキ板を配布（約10ha）



『田んぼダム』
田んぼの多面的機能の一つに
● 雨水を一時貯留し、下流および周辺に徐々に流すことにより洪水を防止・軽減する『洪水緩和機能』があります。この機能をより多くの雨水を田んぼに貯留させると『田んぼダム』になります。

田んぼダムは 1,000L
みんなで！地域で！
取り組む活動です。
1枚 1000ml 10枚で 10,000ml
1,000L の効果
もっと力を発揮！

『眼下初の田んぼダム』
● 水をためる効果
田んぼに水を貯めることで、雑草を抑えることが出来、水の管理により美しい景観がよみがえります。

『効果イメージ』
実施農家に関する調査の結果、9月豪雨時に田んぼダムを実施した田んぼでは、隣接する排水路の水位が低下確認された。

● 未整備地区
平成25年7月より、赤穂市周辺の約10haで『田んぼダム』実証実験を開始。実証実験では、雨水を一時貯留させる田んぼダムせき板の配布と普及のほかに、調査やせき板設置による視察ツアーを実施することで、現地課題及び実証手法を取りまとめます。

田んぼダム実施地域を支援

■ 田んぼダムとは
田んぼダムは、通常のせき板に切り欠きを設けた『田んぼダムせき板』を一枚追加して設置することで、洪水時に水を貯めて、切り欠きから徐々に排水を行なう、簡単な洪水調整システムです。



■ 西播磨県民局では、平成28年度までの3ヶ年間で、田んぼダムに取組む実施地域を支援します。また、研修会を開催するなど、田んぼダムの取組を積極的に支援します。

※ 実施地区は、自治会または営農単位など地域が支援対象、また、未整備地も対象

□ 支援内容

- ① 田んぼダムせき板を無料配布
- ② 田んぼや、ため地の活用による流域対策のプランニングを支援
- ③ 田んぼの洪水調整が発揮出来るよう、畦畔補強工事や一時貯留を行なう排水路の設置を支援（モデル地区）

○ 実施対象地区
田んぼダムの実施対象地区は、原則、排水路のあるほ場整備が完了した地区です。

○ 対象作物及び実施期間
対象作物は水稲です。また、実施期間は5月～10月の内、地域の営農に合わせた取組期間とします。

＜平成26年度募集内容＞

- 【田んぼダム実施地区】**
- 田んぼダムせき板の無料配布
 - ① 自治会又は営農単位など地域が対象です。（個人単位での応募はできません）
 - ② 整備済の田んぼであること
 - ③ 実験期間終了する10月に管理にかかるアンケートに協力して頂ける地区
- 【田んぼダムモデル地区】** 平成26年度は3地区程度
- 畦畔補強工事など一時貯留にかかる工事の実施及び活動の支援等
 - ① 自治会又は営農単位など地域が対象です。
 - ② 田んぼを活用した地域内外の活動が見込まれる地域であること
 - ③ 活動取材等田んぼダムの普及活動にご協力頂ける地域であること

＜問い合わせ先＞ 西播磨県民局 光都土地改良センター
農村計画課（担当 榮藤・木村）連絡先 0791-58-2218

水田貯留に係る広報チラシ（H24年度作成）

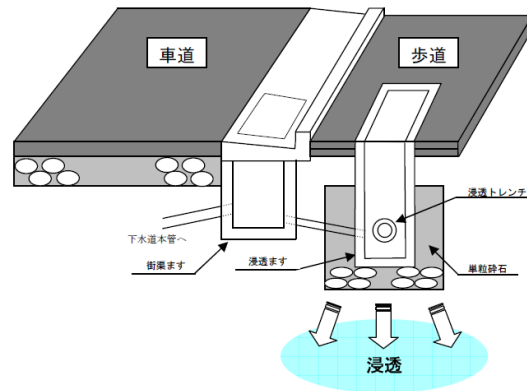
Check

・貯留に関する農業者の不安（畦や作物への影響）が課題となっている。

実施目標 流域市等と連携して取り組む、様々な流出抑制対策（各戸貯留等）

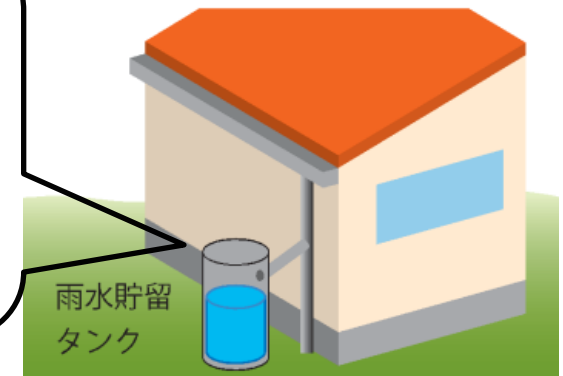
Plan 【第1期計画】 その他の雨水貯留・浸透の取り組み

道路側溝等の浸透化



浸透側溝設置ガイドライン（改訂版）に基づき浸透化を推進。

各戸への雨水貯留タンクの助成



雨水貯留タンク設置イメージ

Do 【H26年度実績】

- ・ 公共施設での貯留・浸透施設の設置：
 - 県営住宅で設置推進 [累計1箇所]
- ・ 雨水貯留タンクの設置：
 - 助成基数111件 [累計1,221件]
- ・ 道路側溝等の浸透化：
 - 約6.2km [累計166km]
- ・ 透水性舗装：
 - H16年より標準仕様として適用

Check

- ・ 各戸貯留は着実に実績が増加しており、今後も広報媒体を活用した普及啓発を図りながら、引き続き推進していく。
- ・ 浸透施設整備（道路側溝・宅内排水等）についても、引き続き推進していく。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第1期計画】

水害リスクに対する認識を向上させる ~知る~

具体的施策：①水害リスクを知る機会の提供 ②ツールの整備 ③防災の担い手の人材育成

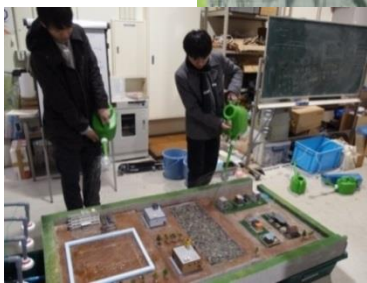
Do 【H26年度実績】

①水害リスクを知る機会の提供

①ジオラマ模型を使った
洪水対策の学習



H26. 5. 17
神戸新聞



②住民主体による
手作りハザードマップ作成



三田市相生区

手作りハザードマップ作成風景

まち歩き体験型講座等の
開催実績：42回（流域市計）



宝塚市米谷自治会
手作りハザードマップの作成
H26実績：32地区（流域市計）

③防災の担い手の人材育成

③住民を対象とした
防災研修



西宮市

ひょうご防災リーダー講座
（西宮市）

防災リーダー講座・
出前講座・研修会等の
開催実績（H26）
県：79回 流域市計：189回

Check

今後も県市共同で水害リスクの認識向上及び人材育成の推進に努めていく。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第1期計画】

情報提供体制の充実と水防体制の強化を図る ～守る～

具体的施策：①避難情報の伝達 ②河川情報の伝達 ③水防体制の強化

Do 【H26年度実績】

①避難情報の伝達

河川監視カメラによる継続配信

武庫川水系で
10箇所設置し、
継続配信



「兵庫県河川監視カメラシステム」にて
Web上で閲覧可能

②河川情報の伝達

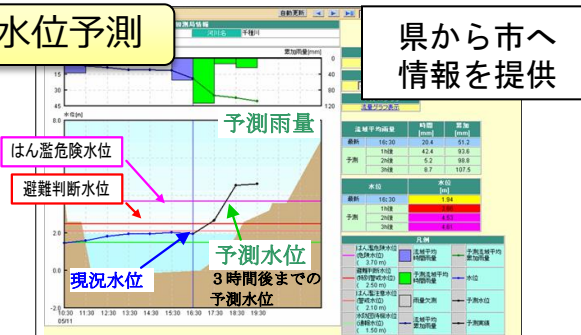
増水警戒情報の発信による注意喚起

回転灯設置状況



フェニックス防災システム
による情報発信

水位予測



県から市へ
情報を提供

③水防体制の強化



土のう積み訓練の様子（宝塚市）

実践的な訓練の実施
県：2回 流域市計：7回

Check

・今後も県・市ともに住民
に提供する防災情報のさらなる充実に努めていく。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第1期計画】

的確に避難するための啓発を進める ～逃げる～

具体的施策：①自助の取組の推進 ②共助の取組の推進 ③公助の取組の推進

Do 【H26年度実績】

①自助の取組の推進

ひょうご防災ネット加入促進

表. 「ひょうご防災ネット」の加入状況

	新規登録件数	目標
平成25年度	132,500件	40,000件／年
平成26年度	128,000件	120,000件／年

「ひょうご防災ネット」

防災行政無線、広報車等の既存情報伝達手段に加え、携帯電話のメールやホームページ機能を利用して、災害発生時等の緊急時に、緊急情報(地震情報・津波情報・気象警報)や避難情報等をいち早く県民・市民の方々に発信するシステム

URL: http://web.pref.hyogo.lg.jp/pa20/pa20_000000001.html

②共助の取組の推進

災害時要援護者支援登録台帳等の整備、情報共有化の取り組みを継続実施(神戸市、西宮市、伊丹市、三田市、篠山市)

③公助の取組の推進

- 津波避難ビル指定・マップ作成、洪水時活用の推進(尼崎市、西宮市)
- 避難経路の屋外表示(西宮市、伊丹市)



避難経路等の屋外表示例(西宮市)

Check ・今後も住民が安全かつスムーズに避難するための取り組みを推進していく。

実施目標 計画規模を上回る洪水が発生した場合の洪水被害を軽減させる。

Plan 【第1期計画】

水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備えを進める ～備える～

具体的施策：①水害に備えるまちづくりの誘導 ②重要施設の浸水対策 ③共済制度への加入促進

Do 【H26年度実績】

①水害に備えるまちづくりの誘導

- ・新しいマニュアルに合わせ、浸水想定区域図の改訂を検討（県）
- ・各種災害のハザードマップを盛り込んだ「尼崎市防災ブック」を作成（尼崎市）

②重要施設の浸水対策

「建物等の耐水機能に関する指針」による耐水化の促進



三田市新庁舎 屋上階発電設備

③水害に備える共済制度の加入促進

フェニックス共済パンフレット



「フェニックス共済」
（＝兵庫県住宅再建共済制度）
は、住宅所有者に加入いただき、平常時から資金を寄せ合うことにより、災害発生時に被害を受けた住宅の再建・補修を支援する制度

表. フェニックス共済の加入状況（平成27年3月末時点）

	目標	全県	うち流域市
加入率(%)	15%	9.2%	7.3%

Check ・今後とも、県と市は水害に備える対策を幅広く検討し、実施していく。

実施目標 合理的な水利用を促進し、より豊かな流量の確保に努める。

Plan 【第1期計画】

■ 流水利用の適正化

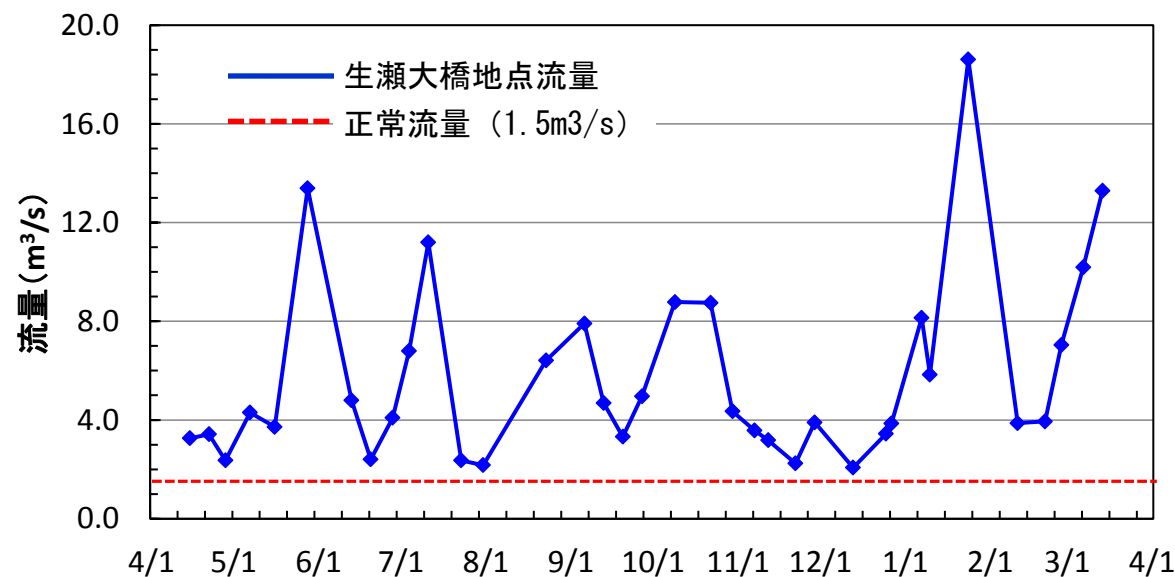
- ・ 取水実態の把握
- ・ 慣行水利権から許可水利権への切り替え

■ 適正な水利用の推進

- ・ 節水の啓発・水利用の合理化
- ・ 雨水・再生水利用の促進



Do 【H26年度実績】



Check 平成26年度については、正常流量1.5m³/sを確保できた。今後もより豊かな流量の確保に努める。

実施目標

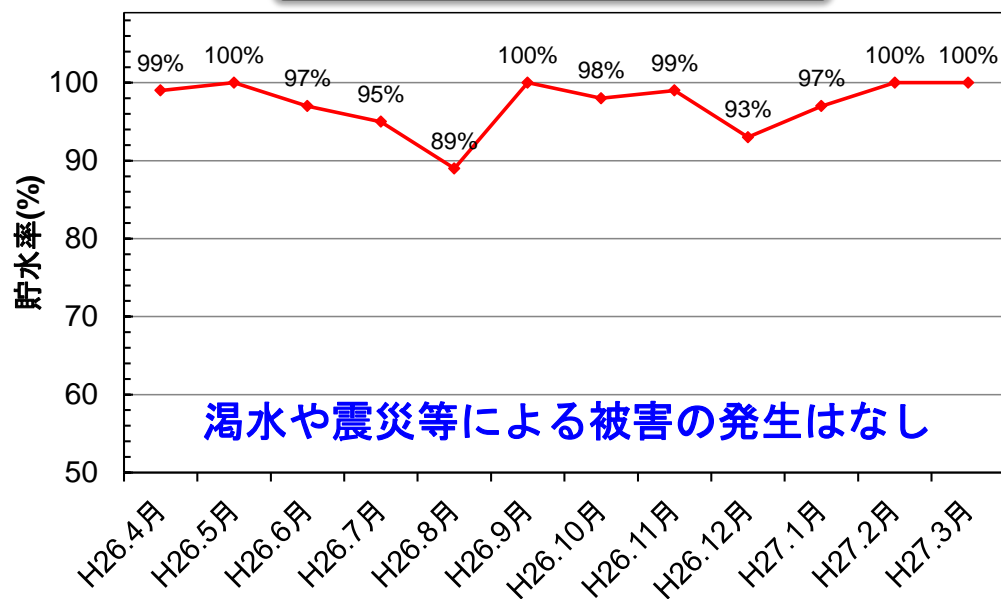
- ・ 渇水時の被害の最小化
- ・ 震災などにおける河川水利用の円滑化

- Plan 【第1期計画】
- ・ 渇水調整および広域的水融通の円滑化
 - ・ 緊急時の河川水利用の円滑化

Do 【H26年度実績】

渇水調整会議、緊急時の河川水利用

青野ダムの貯水率（平成26年度）



参考

給水ネットワークの整備



西宮市

現在の水需要においては、給水車でバックアップが可能のため、当面、パイプライン等の新たな整備は着手しない。

Check

今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。

実施目標

森林、ため池の適正な管理や貯留浸透施設の整備により、健全な水循環を確保する。

Plan

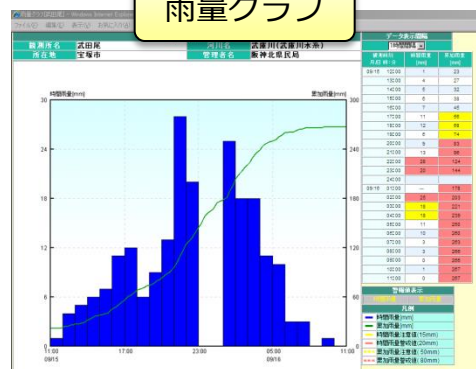
- 【第1期計画】
- ・ 流域水循環把握に必要なデータの収集
 - ・ 森林、農地、ため池の整備や適正な管理（関係機関連携）
 - ・ 貯留浸透施設の整備（関係機関連携）

Do

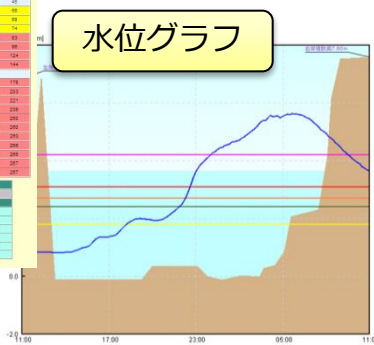
【H26年度実績】

流域水循環の把握

雨量グラフ



水位グラフ



雨量、水位、低水量、地下水位、県管理ダム貯水位等のデータを蓄積

森林、農地、ため池の整備や適正な管理

間伐・作業道の開設



ため池の維持管理



貯留浸透施設の整備

- ・ 道路側溝等の浸透化：約6.2km [累計166km]
- ・ 透水性舗装：H16年より標準仕様として適用

Check

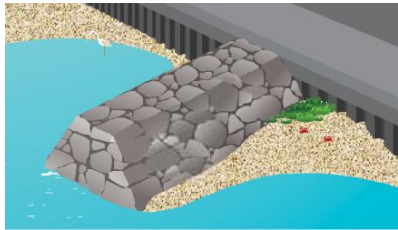
今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養および水循環に寄与する各事業を推進していく。

実施目標 多種多様な動植物が生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生を図る。

Plan 【第1期計画】 動植物の生活環境の保全・再生

①下流部築堤区間

干潟の創出



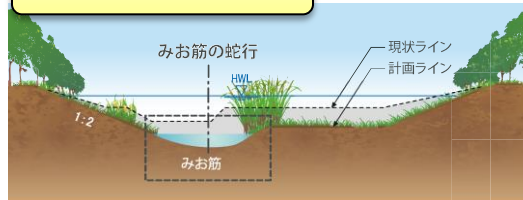
魚類等の移動の
連続性確保
(潮止堰の撤去に向けた地下水調査の実施等)



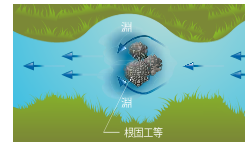
②上流部

- ・ 移動性が低い生物の移植対策
- ・ みお筋の再生
- ・ ワンド・たまりの再生
- ・ 代償措置としての瀬
- ・ 瀬・淵の再生
- ・ オギ群集の再生
- ・ 淵やワンド等の創出

みお筋の再生



R型淵の再生



ワンド・たまりの再生



オギ群集の再生



Do 【H26年度実績】

オギ群集再生に向けた取り組み
(現地表土の再利用)



Check 今後も引き続き、専門家の意見を聴きながら、自然環境の保全・再生に必要な対策を実施していく。

実施目標 アユなど魚類にとってより望ましい川づくりに取り組む。

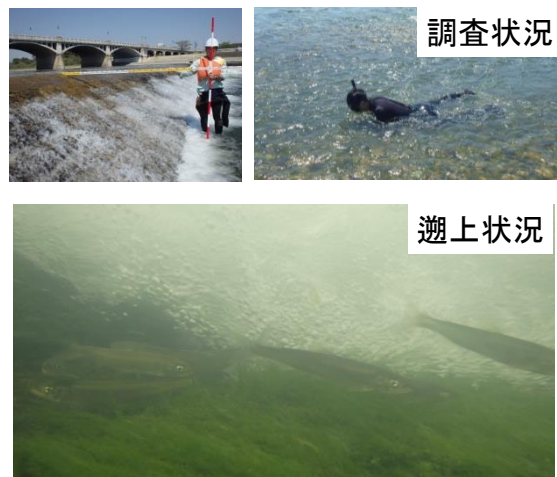
- Plan** 【第1期計画】
- ・ 魚道の改善
 - ・ みお筋、産卵場、稚魚期の生息場所の保全・再生

Do 【H26年度実績】

2号床止め魚道の改良



遡上状況の調査



アユ産卵場の造成



- Check**
- ・ アユの産卵場造成は台風により中止したが、出水による河床の攪乱により、産卵場が確保される結果となった。
 - ・ 今後、アユ調査の結果を踏まえ、魚道の構造等について検討していく。

実施目標

- ・ 自然景観を基調とした武庫川らしい景観を保全・創出する。(管理番号16)
- ・ 人と河川の豊かなふれあい及び適正な河川利用の確保。(管理番号17)

Plan 【第1期計画】 管理番号16

- ・ 自然景観を基調とした武庫川らしい景観の保全・創出
- ・ 治水上支障がない範囲での緑化修景
- ・ 樹木伐採を最小限とする河道計画、施工方法等の検討

Plan 【第1期計画】 管理番号17

- ・ 地域住民の多様な要請への対応
- ・ 河川利用の利便性の確保と自然を
生かした水辺の創出や施設整備

自然を生かした水辺（干潟）の創出



Do 【H26年度実績】 (管理番号16)

護岸のり面の緑化



植生工実施状況

Do 【H26年度実績】 (管理番号17)

地域住民の多様な要請への対応



事業PR用掲示板の設置



出前講座開催

- Check
- ・ 上流部においては、引き続き武庫川らしい景観の保全に配慮し、河川改修工事を実施していく。

- Check
- ・ 下流部築堤区間においては、引き続き地元説明会や出前講座等を通じた広報に努め、地元の理解を得ていく。
 - ・ 河口部の干潟については、今後、河川改修の進捗にあわせて整備に着手する。

実施目標

- ・ 関係機関や地域住民と連携して、さらなる水の「質」の向上を図る。(管理番号18)
- ・ 適切な河川維持管理に取り組む。(管理番号19)

Plan 【第1期計画】 ・ 下水道放流水のさらなる改善 (管理番号18)
 ・ 水質状況の的確な把握
 ・ 水生植物による浄化機能の向上

Plan 【第1期計画】 ・ 「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じて維持・修繕工事、樹木伐採等を実施する。(管理番号19)

Do 【H26年度実績】 (管理番号18)

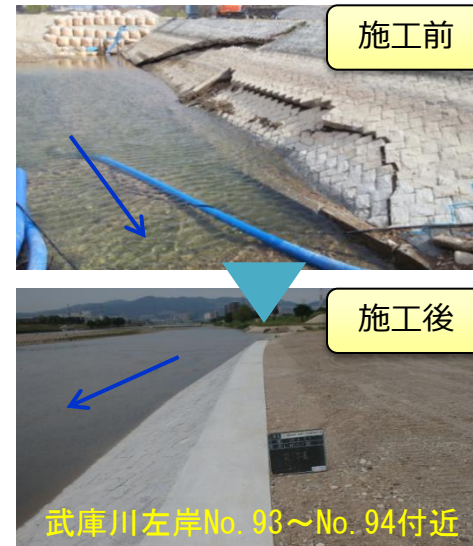
水質汚濁防止法に基づき
水質・底質調査を継続



Check 水質調査等については、下水道法、水質汚濁防止法に基づき、今後も継続して調査を実施する。

Do 【H26年度実績】 (管理番号19)

護岸補修の事例



樹木伐採の事例



Check 今後も継続して河川の巡視点検を行い、維持・修繕工事、樹木伐採、除草・清掃等、適切な維持管理に努める。

実施目標 適切な役割分担のもと、「参画と協働」による武庫川づくりに取り組む。

Plan 【第1期計画】

- ・ 参画と協働の推進
- ・ 情報発信、連携・交流の支援等の継続実施

Do 【H26年度実績】

第3回みんなで取り組む武庫川づくり交流会を開催

第3回 みんなで取り組む武庫川づくり交流会
きてみて やってみる 参加無料
武庫川の生物多様性保全
 ～在来種と外来種との関係性について考えてみよう～

県では、地域共有の財産である武庫川を守り育てるため、「参画と協働」による武庫川づくりに取り組むこととしています。

このことから、昨年度と一昨年度は県内で「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催し、活動事例紹介や参加者との意見交換を通して、自然環境面から自治体や市民活動や相互連携の必要性について考えました。

今年度は、武庫川のフィールドに出て、武庫川が画題している生物多様性保全の課題の一端を確認するとともに、その課題解決のための実践活動を行い、今後の連携のありかについて考えます。

日時 2014年9月20日(土)
 9:30-12:30 (受付開始 9:00)

会場 宝塚市立美座会館
 (宝塚市美座2丁目10-1・美座小学校横)
 武庫川河川敷
 (常神川河口付近)

定員：約70名(先着順・小学生は保護者同伴)
 参加費：無料
 持ち物等：服装をご確認ください。
 申込方法：裏面の申込み用紙等でお申し込みください。
 申込締切：2014年9月15日(月)・祝
※公共交通機関にてお越しください。
 ・阪急宝塚線「美座駅」下車、徒歩20分
 ・阪神宝塚線「常神川河口駅」下車、徒歩20分

主催：兵庫県 農土整備部 土木局 武庫川総合治水室
 協力：宝塚市・宝塚市自然保護協会 事務局：公益財団法人ひょうご環境創造協会



Check ・ 地域住民との連携を支援・促進するための取り組みを適宜・適切に実施していく。

実施目標

治水・利水・環境の観点から河川の総合的な管理を行う。(管理番号21)
河川整備計画の着実な推進(管理番号22)

Plan【第1期計画】(管理番号21)

- ・ 定期的な観測によるデータの把握
- ・ 事業実施前後のモニタリング
- ・ 流量観測データの蓄積

Plan【第1期計画】(管理番号22)

- ・ 河川整備の進行管理
- ・ フォローアップ委員会(懇話会)の設置
- ・ 流域住民との情報の共有

Do【H26年度実績】(管理番号21)

河川水位観測状況
(低水流量観測)



河川監視カメラによる
観測情報の公開



Do【H26年度実績】(管理番号22)

第4回フォローアップ懇話会開催



Check

- ・ 雨量や河川水位等のモニタリング調査を今後も引き続き継続的に実施していく。

Check

- ・ P D C A サイクルの考え方に基づいた進行管理を実施し、整備計画の次なる進行と改善に努めていく。